青空の下でね

那月乃　レオ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
青空の下でね

【Ｎコード】
Ｎ３０２６Ｅ

【作者名】
那月乃　レオ

【あらすじ】
幼馴染のチヒロと有希。有希にとっては、チヒロは、特別な存在。けどチヒロには、もっと大切な人が居るみたい―…。それが誰だか分からない。恋の……芽生えです。

たった一人。たったたった――…

青空の下でね

チヒロは、私に向かって笑う。
そして、私は、笑い返す。

――それが、日常であり、日々の幸せでもあるのだ。

◇

やはり、季節は、巡り巡り変わるものであり、冬が来た。

「有希ぃ。今年は、欲しいものがあるんだけど……」
チヒロが私にお願いをしてくるなんて初めてだ。
まぁ、誕生日も近いし、お願いぐらいお見通しだ。
たぶん、彼女かサッカーボールとかだろう。
私は、少し待ち。「何？」っと不機嫌そうに答えた。
――意地っ張りめ。
「俺！　やっぱり、勉強できる脳が欲しいんだ！」
「は？」
とっさに出てきた「は？」の言葉。まぁ、当たり前であろう。
英語は、いつもダメダメで私に負けていても、「人間頭だけじゃ

ないんですっ」って、言い返す奴が……勉強できる脳みそだと？
「……」
私は、三点リーダーの数だけ眉間にしわを寄せてチヒロの顔を見つめた。
「アホか」
私は、そう呟くと、椅子から立ち上がり「帰るぞ」と一言言って教室の出口へ鞄を持って歩き出した。
少し遅れてチヒロは、「オッケー！」私に返事をすると通学用のバックを方肩にかけ、私の後を追いかけた。

帰り道。チヒロは、夕焼けを見ながら呟いていたのが聞こえた。
それは、とても小さくて、小さくて夕焼けに吸い込まれていきそうな言葉。
「あいつ。振り向いてくれるかなぁー」
その時気がついた。どこまで鈍いのか。
鈍感女。
――人間。恋する生き物なんだな。
聞こえないフリをしようとしたが、私は、チヒロの方を見て
「振り向くよ。きっと」
と、言ってしまった。
そのときのチヒロの顔は、夕焼けと似たような色をしていた。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3026e/

青空の下でね

2011年1月11日15時09分発行